

A. 旧少年自然の家が生まれ変わって誕生した「泊まれる公園」INN THE PARK。B. 遊休不動産を活用するまちづくりへの取り組み「リノベーションスクール@沼津」。
C. 戸田棧橋のすぐそばにオープンした宿泊施設。D. 戸田で味わうことのできる深海魚料理。E. 市民の多くが熱狂する沼津夏まつり・狩野川花火大会。
これらは沼津に熱中する人たちによってつくられる沼津の魅力に他なりません。

A	D
B	E
C	

が、沼津にとって表面的なプロモーションだけで終わるものではないはずで、深海魚に加えて、昔のまちの賑わいで、市民のプライドも一緒に取り戻せる気がします。最近では、まちの中心部に活気を取り戻すことが見直されつつありますよね。

【市長】 コンパクトシティ構想ですね。駅前には市の顔、人が集まる空間形成が大切です。例えばヨーロッパの駅のように、人のための空間を整備し、イベントなどで賑わいを創出するのが理想かもしれません。

【佐藤】 東京では蔦屋などがまちの拠点づくりに貢献している。民間企業主導のプランニングも面白いでしょう。でも、どこかで成功したアイデアをまねるのではなく「作り方を作る」という考え方でまちを作ると非常に強いと思います。全く新しいものは、ルールから作る。普通はマニュアルを参考に作る。当然、新しい作り方で作ったものとはインパクトが全然違います。市民の皆さんが、新しい沼津の作り方を自分たちで生み出すんです。数名のプレイヤーがいれば、行政は最初にちょっと牽引するだけで、すぐに動き出すはずですよ。僕が知らないだけで、すでにそういう動きはあるかもしれません。

【市長】 魅力的なまちづくりを進めていくために、まさに今「沼津市中心市街地まちづくり戦略会議」を開催しています。佐藤さんのお話を伺って、発



想や着眼点を改めて意識する必要もありそうです。これからの沼津も、新しく明るい未来に向けた展望をどう開くかという、まちづくりの原点に戻らなければいけないですね。

熱中をはじめよう

【佐藤】 全体像が見えてから動くよりも、少しでも面白いと感じるものから進めて、それらのいくつかが有機的に繋がれば、群雄割拠のようにリーダーが誕生しますよ。市長が先ほど黒板に書かれたメッセージにもそのような想いが込められていると思います。

【市長】 「夢を見るから人は輝く」の言葉とあります。夢や希望があれば、未来を考えます。市民の皆さんにも、沼津というまちに熱中し、新しい沼津を作るんだという夢を持って輝いていただきたいし、それがまちの活力になります。「誇り高い、元気なまち 沼津」のスローガンを共有し、ともに前進していきたいですね。

【佐藤】 「ヒタゴラスイッチ」は、17年も続いています。知識ではなく考え方や作り方を教える内容に、子供たちが熱中している。あの番組を見ている子供は、無意識ですが物事の根本の面白さを感じています。そして、どうすれば成功するか考えるからこそ、作るという過程では失敗にも意味があるんです。

【市長】 佐藤さんの幼少期や私が子供の頃にもそのような経験があったとい

**本質とプライドを
まちづくりの突破口に**

【市長】 観光、産業面で今注目を集めているのが深海魚です。見た目のグロテスクさや調理の手間から、まちを挙げて取り組む自治体は他にありません。

【佐藤】 駿河湾で獲れる深海魚は沼津にとって、まさに象徴的かつ未来的なものです。戸田の駿河湾深海生物館、実はあれ、僕の父親が始めましてね…。

【市長】 そうだったんですか！

【佐藤】 戸田の御浜の外海に潜ると、駿河湾は崖のように急に深くなっていて、目の前をエイがひらりと横切るとすごくドキッとします。子供ながらに素晴らしいと思いましたね。あの光景は一人でも多くの人に見てもらいたいと願っているんです。例えば水族館のガラス越しに、そんな駿河湾が見られなかなあ。

【市長】 深海魚は、沼津港深海水族館で見ることが出来ます。今や沼津港周辺は毎年166万人の人が訪れます。それから、駿河湾のテナガエビは、首都圏で高級食材として消費されています。この「深海」をどう活用していくかも大切な課題です。

【佐藤】 僕には心に決めたエビがいるので、東京ではエビは食べません(笑)。子供の頃に食べた、戸田のトロール網にかかるエビに敵う味はありません。深海魚はかなり独特なコンテンツです。



うことですね。

【佐藤】 そうですね。市長のプラモデルの話に共感しました。潜在的に「作り方を作る」にチャレンジしていた人が、市長になっていくことが嬉しい。失敗や危険も知っているから、市民にとっての本当の成功や安全を考えられるはずですよ。がんばってください。

【市長】 私は、子供の頃の佐藤さんに親近感を覚えました。クリエイターとして発想豊かな佐藤さんと、多少ですが私の体験が重なっていて、未来に向けた沼津のまちづくりに関わることに大きな自信を得ました。これからもお気づきの点がありましたら、ぜひご指導下さい。本日は、誠にありがとうございました。

【佐藤】 こちらこそありがとうございます。新しい時代のスタートですね。これからもいろいろなお話に熱中し、がんばっていきましょう。